

## 中表紙の記入例

資料番号 : 「添付資料」等

資料名称 : 「凍結融解抵抗性試験結果報告書」等

試験名称 : 「コンクリートの凍結融解試験」等

試験目的 : 「再生粗骨材コンクリートと砕石粗骨材コンクリートの凍結融解特性を比較することで、再生粗骨材コンクリートの耐凍結融解抵抗性能を確認する。」等

試験方法 : 「コンクリートの凍結融解試験方法(JIS A 1148)」等  
試験機関 : 「日本建築総合試験所 試験室」等

試験条件 : 「骨材の比重・吸水率・粗粒率、セメントの種類、コンクリートの配合、フレッシュコンクリートの空気量・単位容積質量・スランプ・練上がり温度、養生方法、養生終了材齢、試験方法の種類、試験サイクル数」等

判定基準 : 「[1]「現行基準があればその基準値」等を記載し、さらに[2]「新技術の再生粗骨材コンクリートと従来技術の砕石粗骨材コンクリートの相対動弾性係数、耐久性指数、及び質量減少率を比較する。」等を記載して下さい。」

試験結果 : 「新技術と従来技術の各供試体の相対動弾性係数、耐久性指数、質量減少率とグループの平均値、最大値、最小値、標準偏差」等

考 察 : 「再生粗骨材コンクリートと砕石粗骨材コンクリートの各項目に関するグループ間平均値比較において、顕著な差異が認められないので、両コンクリートの耐凍結融解抵抗性能は同程度であると考えられる。」等

## 様式3との関連

『様式3 : 添付資料名・番号(根拠データ等)』へ転記して下さい。

『様式3 : 添付資料名・番号(根拠データ等)』へ転記して下さい。

『様式3 : 評価項目(小)』へ耐凍結融解抵抗性能を転記して下さい。

『様式3 : 実証方法・機関』へ転記して下さい。

『様式3 : 実証方法・機関』へ転記して下さい。

『様式3 : 申請技術の数値採取条件』へ転記して下さい。

・現行基準があれば基準名称を『様式3 : 基準値等の引用もと』に、基準値を『様式3 : 現行基準値等』へ転記して下さい。  
・現行基準がない場合は『様式3 : 基準値等の引用もと』には「従来技術」と記載して下さい。

・新技術に関する試験結果は『様式3 : 申請技術について実証により確認した数値等』へ転記して下さい。  
・従来技術に関する試験結果は現行基準の有無で転記先が異なります。  
現行基準が有る場合 『様式3 : 従来技術との比較<結果>』へ  
現行基準が無い場合 『様式3 : 現行基準値等』へ  
それぞれ転記して下さい。

『様式3 : 従来技術との比較<結果>』へ転記して下さい。